

## 5 移動の状況

### (1) 計画区域内の交通機関分担率

平成30年の第6回東京都市圏パーソントリップ調査の結果を用いて、計画区域内移動（下表の3地域間）における交通手段の比率（交通機関分担率）を検証した。

参考：各ゾーン（地域区分）に含まれる町丁目

銀座・新橋・虎ノ門等	
0021	八重洲、京橋、日本橋
0022	銀座
0023	日本橋兜町、日本橋茅場町、八丁堀、新川、新富、入船、湊、明石町、築地、浜離宮公園
0031	虎ノ門、愛宕、六本木、麻布台、麻布狸穴町、麻布永坂町、東麻布、西新橋、新橋、東新橋、浜松町、芝大門、芝公園
勝どき・晴海等	
0024	佃、月島、勝どき、豊海、晴海
豊洲・有明等	
0346	豊洲、東雲、有明、青海

計画区域内の交通機関分担率は、銀座・新橋・虎ノ門等と勝どき・晴海等間では鉄道の分担率が約55%程度となっているが、勝どき・晴海等と豊洲・有明等間では約9%となっている。バスは逆の傾向にあり、勝どき・晴海等と豊洲・有明等間の移動における分担率のほうが高くなっている。

第5回（平成20年）調査結果と比較すると、勝どき・晴海等と豊洲・有明等の移動においては、自転車及びバスの分担率が上昇している。自転車の分担率が上昇している背景には、近年の自転車シェアリングの拡大が要因として考えられる。

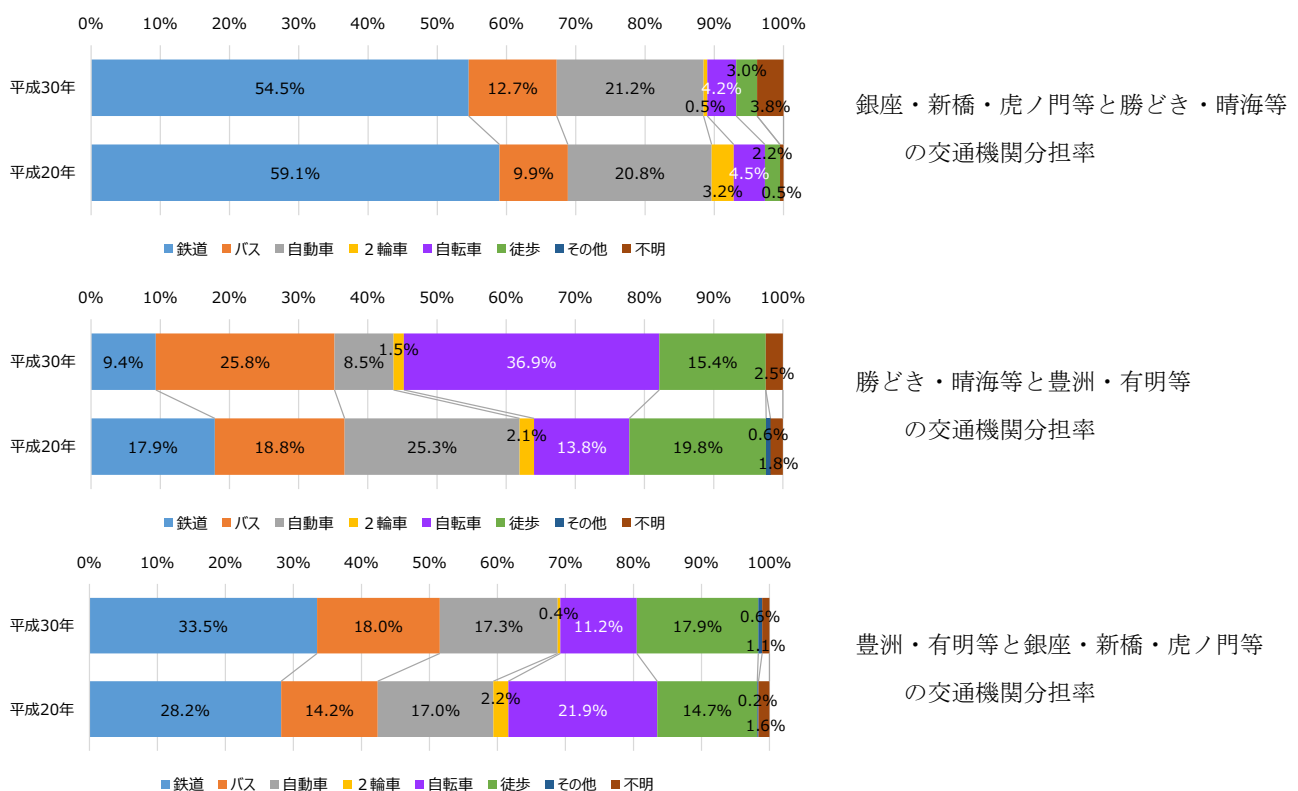


図 1-5-1 交通機関分担率（H30・H20）

出典：(上) 第6回東京都市圏パーソントリップ調査（平成30年）

出典：(下) 第5回東京都市圏パーソントリップ調査（平成20年）

## (2) 計画区域の施設集積地区における来訪者等の推移

### ①高齢者へのバス利用支援の状況

東京都シルバーパス事業の指定団体である一般社団法人東京バス協会では、高齢者(70歳以上)の積極的な社会参加を支援するため、都内の路線バス(高速バス、一部自治体コミュニティバス等を除く。)と都営交通を無料で利用できる東京都シルバーパスを発行している。東京都シルバーパス関連調査報告書(令和2年2月)によると、平成30年度の発行枚数は約103万枚で、70歳以上の都民の約46%が東京都シルバーパスを利用している。

### ②訪都外国人<sup>※</sup>の推移

令和6年の訪都外国人は約2,479万人と推計され、対令和元年比63.3%増で、過去最多を記録している。

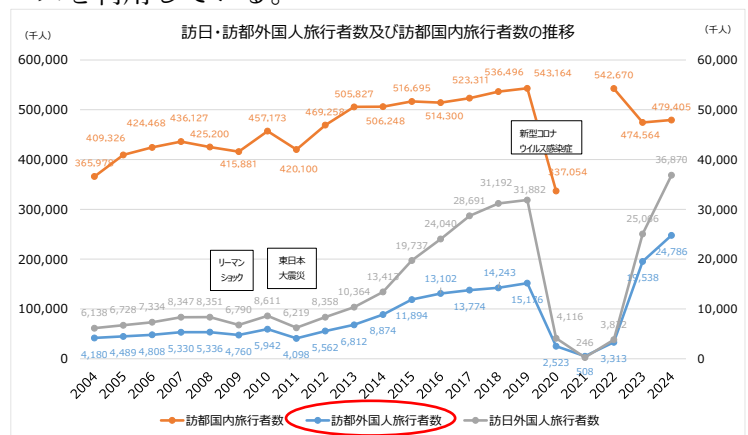


図 1-5-2 旅行者の推移

出典：東京都産業労働局「令和2年、4年、5年、6年訪都旅行者数等実態調査」

また、訪都外国人が多く訪問する場所は、計画区域のうち、銀座及び東京駅周辺・丸の内・日本橋が51%以上、お台場・東京湾及び築地が14%以上となっている(令和6年調査)。

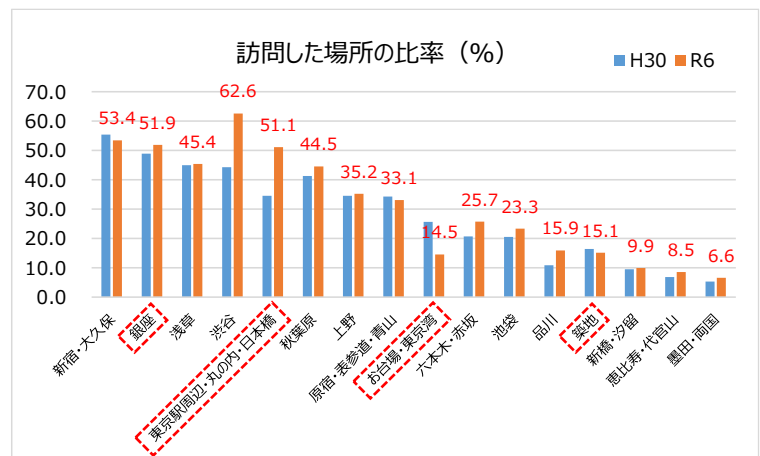


図 1-5-3 訪都外国人の訪問場所比率

出典：東京都産業労働局「平成30年及び令和6年国・地域別外国人旅行者行動特性調査」

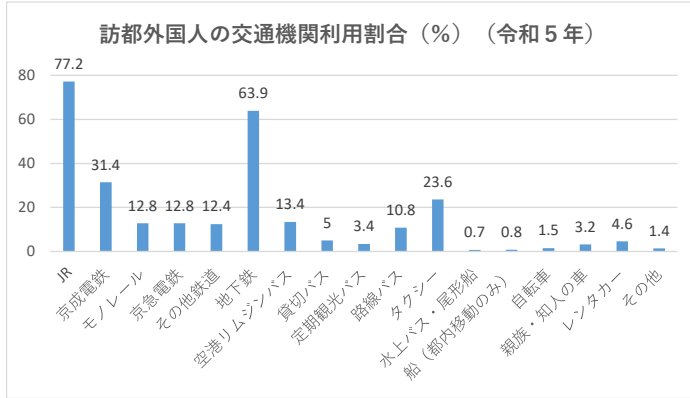
なお、日本政府観光局(JNTO)が発表した令和6年(2024年)1月から同年8月までの訪日外国人旅行者数(推計値)は、7か月連続で同月過去最高を更新している。また、令和元年(2019年)比では8.4%増となっており、新型コロナウイルス感染症流行以前を超える水準まで増加している。

訪都外国人：東京都を訪れた外国人旅行者を訪都外国人と表す

### ③訪都外国人の公共交通利用状況及び公共交通利用におけるニーズ

令和5年（2023年）に東京都を訪れた外国人旅行者の交通機関利用割合をみると、「JR」及び「地下鉄」が多くなっており、鉄道以外ではタクシーの利用割合が高い。

さらに、回答者の項目別満足度（右図）において、「交通機関」は約73%の満足度となっている。

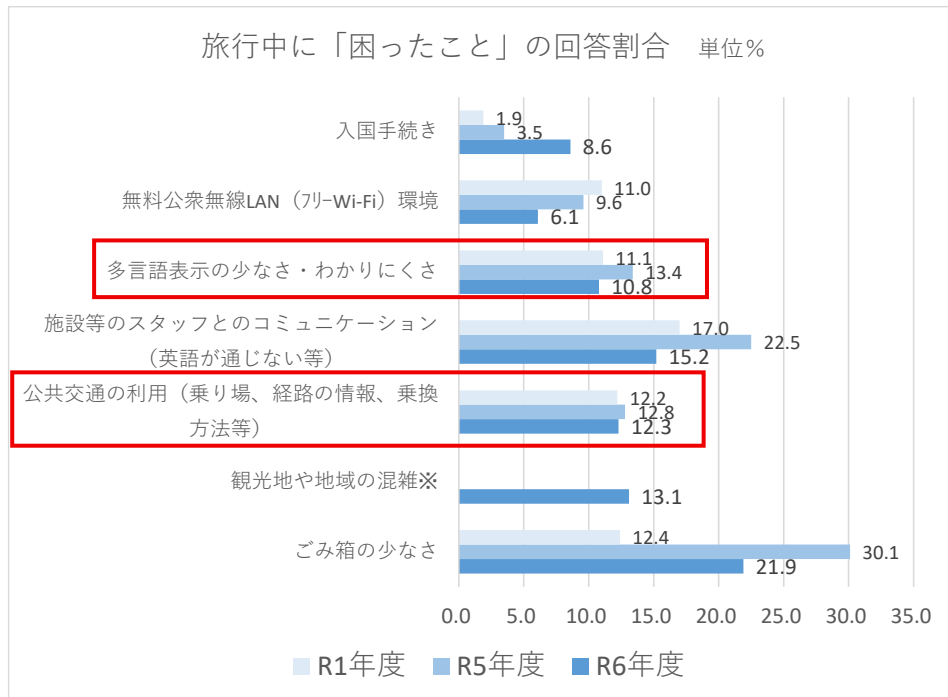


図表18 項目別満足度（令和5年）



出典：「国・地域別外国人旅行者行動特性調査報告書」（東京都産業労働局）

一方、観光庁が令和元年度、令和5年度、令和6年度に実施した「訪日外国人旅行者の国内における受入環境整備に関する現状調査」では、受入環境に関する不便・不満の中で、公共交通に関連する項目として、「公共交通の利用」及び「多言語表示の少なさ・わかりにくさ」等が挙げられており、令和6年度では、「公共交通の利用（12.3%）」及び「多言語表示の少なさ・わかりにくさ（10.8%）」となっており、令和元年度と大きな変化は見られない。



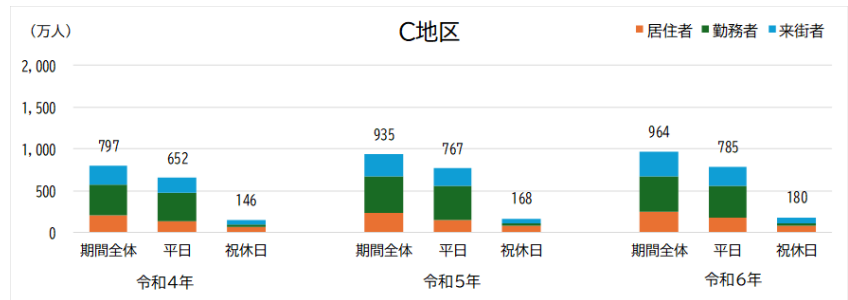
観光庁「訪日外国人旅行者の国内における受入環境整備に関する現状調査（各調査年の結果）」より作成

（出典：観光庁HP 令和7年4月18日更新）

上記の様に訪日外国人が増加していることに加え、臨海部における都市開発進展による居住人口の増加や、イベント開催時の計画区域への来訪者が国内外問わず増加していることが想定され、計画区域内の大規模開発地及び大規模イベント等が開催されるエリアにおいて、居住者数及び来訪者数等がどのように変化しているかを把握した。

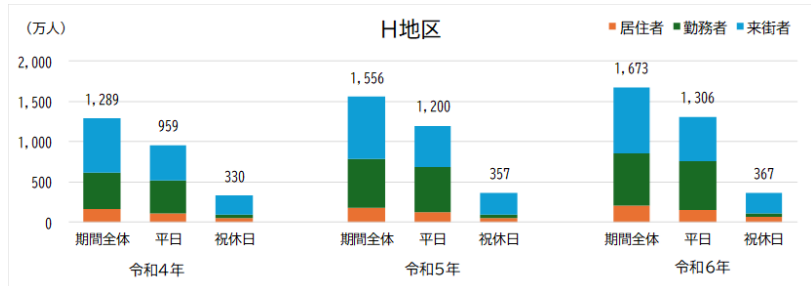
その結果、計画区域内の以下のような施設集積地区では、過去3年間（令和4年～令和6年）で居住者及び来訪者が増加している（モバイルビッグデータ（KDDI）による集計結果）。

【晴海（C地区）】



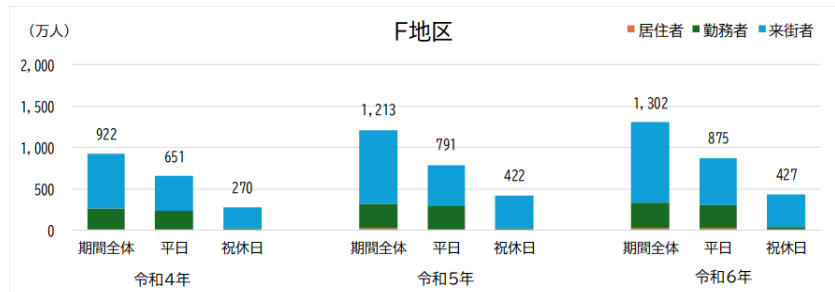
HARUMI FLAG の入居開始やシティホテルのリニューアルオープン（共に令和6年1月）も影響し、居住者及び来訪者が増加

【豊洲（H地区）】



豊洲駅周辺の業務施設や大規模店舗整備の影響もあり、令和5年以降来訪者が増加

【有明南部（F地区） 東京ビッグサイト立地地区】



東京ビッグサイトが立地する地区で、大規模イベントの開催等の影響で、令和5年以降来訪者が急増

◆ 展示会等利用件数・来場者数

(令和6年4月現在)



参考：東京ビッグサイトの来場者数の推移  
(展示会等利用件数／来場者数)

出典：東京ビッグサイト HP